

マンガ研究会報告会のレポート

講師 精華大学教授 牧野圭一 教授他



TEXT
岡崎

1999年7月2日、立命館衣笠キャンパスにおいて1999年度第1回マンガ研究会の報告が行われました。

報告者は、精華大学教授牧野圭一教授、ジャクリンヌ・ベルント立命館大学助教授、マンガ研究者吉野和真氏、出席者はマンガ研究者や学生約30人でした。ここでは、「学術的

マンガ研究に何が求められるか」というテーマを中心に活発な意見のやり取りが行われました。

精華大学牧野圭一教授の報告

精華大学で、「デザイン学科のマンガ科を教えておられる牧野教授は、マンガ家でもあり長年マンガ業界の現場に携わっておられました。

そういった現場からの視点を中心に、一般の人からは見えにくいマンガ業界の報告や問題をあげられました。とくに重要なもの、緊急問題を次の6つに分けて報告が行われました。

マンガの読み解きの文法

まず、マンガの読み解きのための文法についてお話がありました。

ストーリーマンガではすでにマンガの文法とも言えるものが何人かの研究者によってなされていますが、

コママンガ、すなわちカートゥーンにおいてはまた全くの手付かずの状態です。牧野教授御本人も「コママンガを描かれていたこともあり、一枚の絵の中にアイデアが集約されていると考え」と「ストーリーマンガ」よりもさらに深い法則があるのかも知れない、と指摘されました。

マンガのデータベース化、マンガ検定

読み解きの文法を踏まえてのマンガのデータベース化、「マンガ検定」への試みの報告がありました。

まず、「マンガ検定」とは、漢字検定、漢字の意味を読み取る検定があるのなら、同様にマンガの意味を読み取る「マンガ検定」も、マンガ文法の研究が進めば可能ではないかとお考えでした。また、大量のマンガ作品を整理してのマンガのデータベース化は「アイデア、発想法の世界百科辞典」となるに違いないという御意見もその中にありました。

インターネット上のシンジケートと電子透かし技術

インターネット上のシンジケート、マンガが世界中の人々のユーモアの共有物となりはしないかという提案を、

インターネット上に流したイラストレーションやマンガ無断利用の防止のための「電子透かし」技術の紹介がありました。

「電子透かし」という技術は、費用を払わないで作品をインストールすると画像が乱れて使い物にならなくなるという技術です。その技術を利用して世界に作品を配信しても、ビジネスとして成立するのではないかと報告がされました。

マンガの著作権問題

マンガ業界でもっとも大きな問題とも言える著作権問題についてのお話がありました。

これは、牧野教授御自身も深く関わっておられる問題で、深刻なトラブルがすでにおこっているにもかかわらず、法律関係者自身もマンガのような複雑な表現方法になつてくる十分に従来の知識では対応できていないのではないかといいことです。またマンガのように巨大な市場を持ち、そのキャラクターも莫大な経済利益をもたらすのに、そういったまだ十分でない認識というものによって仕切られているというの、ある意味非常に恐いことでもある、という御指摘がありました。

また、この問題を踏まえて、ぜひ

法律の専門家の方が、マンガ学会に入っていたら、マンガというものを理解していただきたい、という呼びかけもされました。

マンガの性表現、差別表現

マンガの性表現、差別表現についての御意見を述べられました。これは一時期「有害図書」問題として大きく取り上げられたものでもあり、一般の人の十分な認識も得られないまま小売状態にある、という報告がされました。それはマンガの内容を批判すべきであり表現方法を批判すべきではなく、そしてこれは法律専門家がマンガ表現を熟知して上で、正面から取り組む必要があるという指摘がありました。

女性マンガ家の人権問題

女性マンガ家の人権問題を取り上げられました。高校を卒業するとすぐに作家として一線で活躍するようになる場合、社会とのかわりが断たれてしまうことや、また担当によるマンツーマンの作家育成にも問題があるという報告がありました。

また、表面的な「マンガ文法」の解明だけでは、その本質に近付くことは不可能だ、という御指摘もありました。

最後に牧野教授はマンガの学術研究が放置され続けてきた今、緊急問題ばかりの火事場のような現状だと述べられマンガを社会的視点からとらえ、マンガ愛好家を離れたマンガ研究会、マンガ学会の発足への必要性を強く訴えられました。

今回の報告会において感じられたことは、牧野教授の御意見は御本人もマンガ業界にかかわっておられることもあり、「マンガに関する問題」を非常に興味のあるものとしてとらえることができたということです。今まで、「マンガ」というジャンルは表立った取り組みがなかっただけに、マンガ研究会 およびマンガ学会の発足の意義を強く感じました。

精華大学ホームページ
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/>